

トビウオ通信 (H26 第 1 号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成 25 年漁期前半の底びき網漁業の動向》

小型底びき網漁業 (かけまわし)

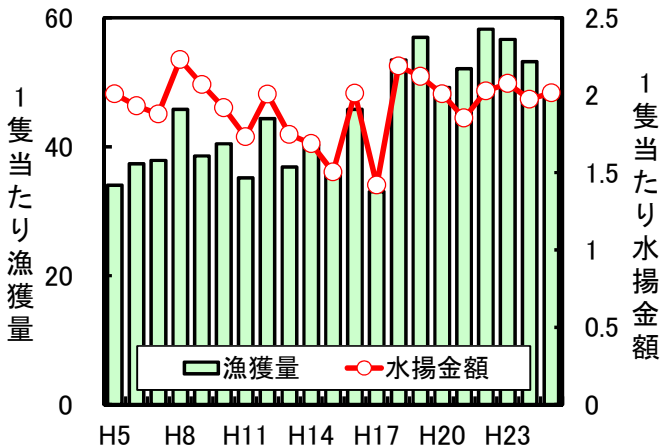


図 1 小型底びき網漁業における 1 隻当たり漁獲量・水揚げ金額の動向(9~12 月)

1 隻当り漁獲量・金額とも平年並み

島根県の小型底びき網漁業(かけまわし)46 隻*の平成 25 年漁期前半(平成 25 年 9 月 1 日~12 月 27 日)の総漁獲量は 2,189 トン、総水揚げ金額は 9 億 2,653 万円でした。1 隻当たり漁獲量は 48 トン、水揚げ金額は 2,014 万円で、漁獲量では平年を 4% 下回りましたが、水揚げ金額では 5% 上回りました(図 1)。今漁期前半は、台風の接近や 11 月以降の寒気の影響で時化の日が多く、網数が少なくなるなど操業に影響がでました。

* 当漁業における島根県全体の操業隻数は 47 隻ですが、統計は 46 隻分の集計です。平年は過去 10 年平均。

ソウハチ 平年を下回る

主要魚種であるソウハチの 1 隻当たり漁獲量は 4.7 トンで、前年の 6 割、平年の 8 割の水揚げに留まりました。ムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は 2.1 トンで、平年の 9 割の水揚げに留まりました。また、メイタガレイの 1 隻当たり漁獲量は 1 トンで前年の 3.2 倍、平年の 1.2 倍の水揚げとなりました。ソウハチは漁期後半に漁獲量が増加しますが、前半の漁獲が 2 年連続で減少していることから、今後の動向に注意が必要です。

ケンサキイカ 前年を大きく下回る

ケンサキイカは秋漁が低調に推移したため、1 隻当たり漁獲量は 1.0 トンで平年の 3 割の水揚げに留まり、H13、H19 年に次いで少ない水揚げとなりました。ヤリイカの 1 隻当たり漁獲量は 1.9 トンで、平年の 1.9 倍の水揚げがありました。

アカムツ 平年を上回る

キダイの 1 隻当たり漁獲量は 4.9 トンで、前年を下回りましたが、平年並みの水揚げとなりました。アカムツの 1 隻当たり漁獲量は 2.2 トンで、平年の 1.3 倍の水揚げがありました。一方、アンコウの 1 隻当たり漁獲量は 4.1 トンで平年並み、ニギスの 1 隻当たり漁獲量は 4.7 トンで平年の 7 割の水揚げに留まりました。

アナゴ類 過去最高!

このほか、アナゴ類(3.5 トン/隻)、カワハギ類(1.7 トン/隻)、ヒラメ(0.6 トン/隻)は好調に推移し、平年の 2.2~1.3 倍の水揚げがあり、アナゴ類は平成 5 年以降最高の水揚げとなりました。

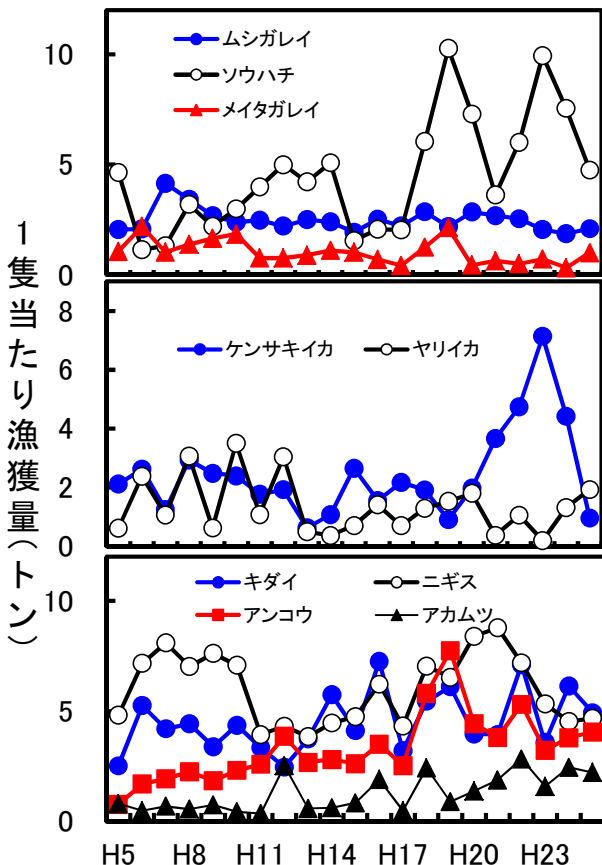


図 2 小型底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(9~12 月)

沖合底びき網漁業 (2 そうびき) (県西部)

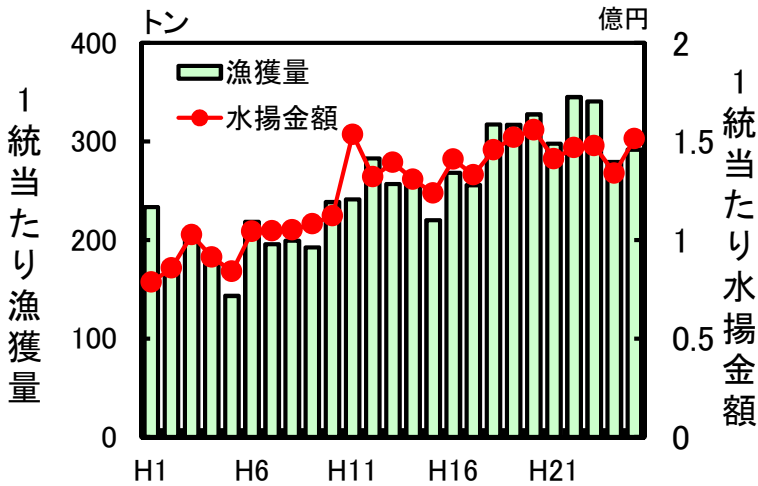


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1 統当たり漁獲量と水揚金額の動向(8~12月)

1 統当たり水揚金額 平年を上回る

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業(5ヶ統)の平成25年漁期前半(平成25年8月16日~12月28日)の総漁獲量は1,458トン、総水揚金額は7億5,692万円でした。1統当たりでは、漁獲量292トン、水揚げ金額1億5,138万円で、量は平年並み、金額は7%上回りました(過去10年平均297トン、1億4,205万円)。

今漁期前半は台風の接近および寒気の影響による時化のため、操業に多少の影響がありました。概ね順調な操業となりました。

ソウハチ 平年上回る

主要魚種であるムシガレイの1統当たり漁獲量は42トンで、前年を2割上回りましたが、平年の8割の水揚げに留まりました。ソウハチの1統当たり漁獲量は23トンで、平年の1.3倍の水揚げがありました。また、ヤナギムシガレイの1統当たり漁獲量は5トンで平年の4割の水揚げに留まりました。ムシガレイは期間を通して安定した水揚げとなり、ソウハチは中型サイズを主体に11,12月にまとまった漁獲がありました。

ケンサキカ 前年下回る

ケンサキカの1統当たり漁獲量は21トンで、前年の6割、平年の7割の水揚げに留まりました。漁獲が多くなる10月の漁模様が低調であったことが影響しました。また、ヤリカの1統当たり漁獲量は3トンで、前年、平年をやや上回りました。

キダイ・アカムツ 好調!

キダイの1統当たり漁獲量は42トンで、前年の1.3倍、平年の1.8倍となり、平成元年以降、最高の水揚げとなりました。平成22年以降、大きさに関係なく、期間を通して安定した水揚げがあり好調に推移しています。アカムツの1統当たり漁獲量は16トンで、前年の1.3倍、平年の1.9倍の水揚げとなりました。今期は小型サイズ(メッキン銘柄)を主体に好調に推移し、H12, 18年に次ぐ水揚げとなりました。一方、アナゴ類の1統当たり漁獲量は21トンで平年並みの水揚げ、またアンコウの1統当たり漁獲量は16トンで平年の7割の水揚げに留まりました。このほか、マトウダイ、カワハギ類は好調に推移し、平年の2.6~2.3倍の水揚げがありました。

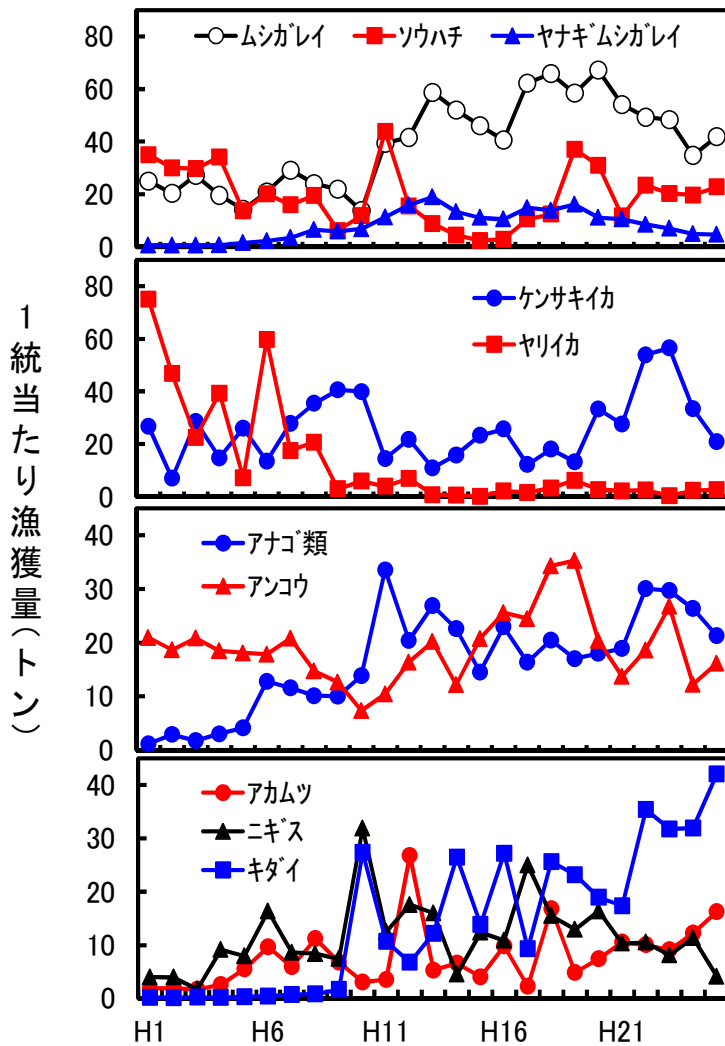


図4 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(8~12月)